

JAMET 佐々木正寛先生のご逝去を悼んで

NPO 法人日本ムーブメント教育・療法協会会長
横浜国立大学・和光大学名誉教授 小林 芳文

特定非営利活動法人日本ムーブメント教育・療法協会(JAMET)の事務局長であり、理事であられた佐々木正寛先生は、病气療養により介護老人ホームでリハビリに励まれていましたが、本年3月11日にご逝去され永遠のお別れとなりました。82歳でした。コロナ禍のもとご家族での葬儀となりましたが、協会会員の皆さんに謹んでお知らせいたしますと共に、ここに哀悼の意を表したく追悼の一文とさせていただきます。

佐々木先生は、愛媛県のご出身で当初大手の出版社の児童本を中心に多くの専門書を編集されておりました。私は、大学で発育発達の研究をしていた傍ら、子どもに関連する記事や原稿を執筆する機会があり、それがご縁で先生とのお親交が深まり、我が国で一步を踏み出したばかりのムーブメント教育の事例中心の書物が実現しました(障害児のムーブメント教育—原理と指導の実際、フレーベル館、1981年)。先生は、この教育の重さに目を向けられ、必ず日本でこの理念が注目され勢いある流れになる事、取り分け障害をお持ちの子どもやそのご家族の笑顔を支えてくれる糧になるとして、ムーブメント活動の普及に向け暖かいご支援と色々な環境を提供して下さいました。

当初、特別支援の教育や療育分野では、伝統的な訓練でなく障害や弱さを目立たせない、子どもが自ら楽しく参加でき、勇んで活動できる教育を探っていました。先生は、遊びの要素を持った感覚運動の支援を立ち上げた米国のM,フロスティック博士の人間尊重の支援法に共感され日本における学問の場作りとして、社会福祉法人よこの保育園園長として現場に入られたことがきっかけで、子育てに親子参加型のムーブメント教育による支援を始めて下さいました。学生や院生はもちろん地方からも大勢の皆さんが参加できる集いも生まれ、保育園を軸にした地域に根ざした土曜教室が誕生しました。

そして保育園には、協会本部、インターナショナルフロスティックセンター日本の事務所もおかれまして。協会の初代会長大島一良博士、二代目会長未熟児医療で著名な仁志田博博士などの繋がりも実現し、今日まで凡そ40年の長い期間、副園長の了子先生と共に、JAMET実践講座の研修や指導者資格講座の開催を支えて下さいました。毎年全国各地での研修会にご一緒され、先生がお好きな和食の刺身でお酒をたしなみ、いつも熱い思いで子どもと家族の幸せを希求して語り合ったことが懐かしく思われます。

先生から賜った数々のご教示を、今後の協会での運営や実践に生かして参りたいと考えております。本当に有り難うございました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

2021年7月

